

だっこするよ

平成30年8月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台 1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子



猛暑の夏 水と戯れるこどもたち 好奇心はあなたの未来です

気象庁が、「この暑さは1つの災害と認識している」と記者会見するくらいの異常な暑さが続いています。メディアも熱中症で命を落とす危険性があると注意喚起を繰り返しています。猛暑日は今月上旬も続く予定とか、この暑さに身体が慣れず、乳児組では、体調を崩すお子さんがいます。園では室温や湿度に配慮しながら、検温、扇風機、食欲の有無、機嫌や活動を見守り、安心して過ごせるように保育を行っていますが、38度を越える発熱後は、下熱後も一日様子を見てからの登園をお願い致します。その方が回復も早いです。

7月18日より、監視員を付けてプール活動が始まりました。ねらいは、1、水に親しみ慣れる、2、暑い日を気持ち良く過ごす。3、皮膚を鍛錬することにより、健康増進をはかることです。日ごとに慣れてきてダイナミックに活動しています。是非、8月中、幼児組は、保育参加を申し込みたいね。水の中で魚になって泳ぐ？戯れる姿や友達と関わり合う姿をご覧いただきたいと思います。3歳児は、小プールで4、5歳児は、大きなプールで大人も本気の水を掛け合い、宝探しやボール集め、また年齢に応じてフープくぐりやみんなで一方方向に向かって走る「流れるプール作り」などなど楽しんでいます。

そして、0~2歳さんたちも、テントの下で保育者と一緒に水の感触や心地よさを味わっています。タライから入れて出して入れて出してを何度もやっています。目をキラキラさせて五感を使って遊ぶ姿はとても満足げ探究心に燃え、カッコいいです。遊びは「自分で育て」目と手と全身を集中させて、実験を繰り返しながら未来へと成長しているこどもたちです。午睡時は、とても静かです。熱中症予防にも休息はとても大切ですね。

三日、日本保育保健協議会主催の「事故予防・安全対策セミナー」に参加しました。NPO法人保育の安全研究・教育センターの掛札逸美先生（博士・社会/健康心理学）が講師です。掛札先生は、現場をよく知り、リスクの情報はNASAのデーターまで記され、ブログは必見です。保育園では、こどもたちの成長・発達の時点で怪我は必然的に起こる。その怪我から環境の見直し等リスク・マネジメント、安全教育、予防や対策を伝え、保育の質の向上へつなげていくことが重要。保育者は、他人の子どもの命を仕事としているプロである=社会的責任がある。そして、人間は、『楽観バイパス』と呼ばれる『最悪』を考えたくない生き物で、ものの見方の歪み（認知バイパス）を簡単に作ってしまう。認知バイパスとは、自分の家族や自分には悪いことは起こらないだろうと思ってしまう。こうした認知バイパスが誰にでも絶対あることを理解することが第一歩である。「ここが危ないよ！」と言い合える園であること、安全の第一は「情報の風通し」コミュニケーションだと話されました。また、怪我にはならなかつたけどヒヤリとした情報の活用（ヒヤリハット）については、集計して年齢ごとの発生率、内容について分析すること、ハザードマップ作成、再発防止策の検討、実践、事例検討を通して園内で共有し、事故防止につなげること、また、自園の保育で大切にしていることを保護者や職員と話すことも必要と学びました。日頃からの大同士の関係性が安全を作ると決意を新たにしました。写真は、つばめ組の体操教室プール指導と園のヒヤリハット表です。各クラスで安全保育への会話を増やし、園全体で共有しています。

